

病害虫発生予察情報(飛騨地域) 7月予報

【 水 稻 】

いもち病(葉いもち)

BLASTAM(アメダスデータを用いたいもち病感染好適条件判定システム)によると、6月第3半旬以降、感染好適日、準感染好適日が確認されていますが(表1)、6月下旬のほ場調査では、いもち病の発生は認められませんでした。しかし、名古屋地方気象台の長期予報によると、降水量は平年並であるものの日照時間が少ないと予想されており、今後、感染好適日の出現増加が懸念されます。感染好適日出現から5～10日後に発病が認められるようになるため、今後の発生状況に注意が必要です。

斑点米カメムシ類

5月第5半旬～6月第5半旬にかけて、高山市国府町に設置した予察灯での誘殺数の合計は91.0頭(平年32.2頭)と多く推移しています(図1)。今後多発すると予想されますので、出穂10日前までに地域全体で一斉に畦畔等周辺の草刈りを行い、カメムシ類の「すみか」をなくしましょう。

【 野 菜 】

タネバエ

管内2か所に設置した誘引剤トラップにおける5月第5半旬～6月第4半旬の累計誘殺数の平均が、255.4頭(平年46.2頭)と多く推移しており(図2)、今後ホウレンソウほ場等での被害発生が懸念されます。本虫は、鶏ふんや未熟堆肥などの腐敗臭に誘引されるため、これらの使用は控えるとともに発生ほ場では播種時に粒剤を施用してください。

【 果 樹 】

果樹カメムシ類(チャバネアオカメムシ、クサギカメムシ等)

5月第5半旬～6月第5半旬にかけて、高山市国府町に設置した予察灯での誘殺数の合計は、チャバネアオカメムシが59.0頭(平年16.4頭)(図3)、クサギカメムシが32.0頭(平年3.6頭)(図4)と多く推移しています。本虫は、夜間の気温や湿度が高いとほ場へ突発的に飛来するため、ほ場内をよく観察し発生が認められる場合は薬剤防除を実施してください。

○主な病害虫の発生状況及び今後の予測(7月)

水	病害虫名 (防除適期)	生育状況 発生量	発生時期及び防除適期						防除上の注意事項
			1 半旬	2 半旬	3 半旬	4 半旬	5 半旬	6 半旬	
稲	生育 (高山市)	並							(生育はコシヒカリ)
	葉 い も ち	並			< 発生最盛期 >				葉いもち
	紋 枯 病	やや少	< 初発生 >						BLASTAM発病好適条件（防除所HPで公
	斑点米カメムシ類	やや多	< 畦 畔 雑 草 に 発 生 (7 月 ~) >						開) の5～10日後に発病する。発生しやす
	防 除 適 期		▲← 葉いもち (初発前) →▲ 紋枯病 (穂ばらみ～出穂期) 一斉草刈り (7/10～20) ▲						→▲ 斑点米カメムシ類 一斉草刈り実施期間(7/10～20)に草刈りを
ホウレンソウ	べ と 病	並	< 連 続 発 生 >						べと病
	タネバエ	多	< 成虫発生盛期 >						感受性品種では梅雨明けごろまで発病に
	防 除 適 期		▲←べと病 (感受性品種、防除) →▲ ▲←タネバエ (防除) →▲						好適な時期になるため、薬剤による防除 を必ず行う。 タネバエ 定植時に粒剤を施用する。
トマト	灰色かび病	並	< 発生盛期 >						灰色かび病
	防 除 適 期		▲← 灰色かび病 →▲ (予防剤の散布、ローテーション防除)						多発してからの防除は困難なため、ハウ ス内をよく観察し、花がらや葉先枯れは 速やかに除去するとともに、予防剤を散 布する。耐性菌が発生しないようにロー テーション防除を実施する。

注) ▲、▲←→▲: 防除適期

	病害虫名 (防除適期)	生育状況 発生量	発生時期及び防除適期						防除上の注意事項
			1 半月	2 半月	3 半月	4 半月	5 半月	6 半月	
野菜全般	コナガ	少	< 連続発生 >						コナガ
	アブラムシ類	多	< 連続発生 >						薬剤抵抗性が発達しやすいため、同一系統薬剤の連用は避ける。
	防 除 適 期		→▲ コナガ（ローテーション防除） →▲ アブラムシ類（防除）						アブラムシ類
									高温乾燥が続くと多発する。ウイルス病を伝染するので、発生前や発生初期に薬剤散布するとともに、防虫ネット・シルバーマルチで飛来を抑制する。
果	生育（高山市）	並							（生育はモモ）
	シンクイムシ類 (特にナシヒメシンクイ)	やや少			第2世代 <幼虫最盛期>				シンクイムシ類
	カメムシ類	多	< 越冬世代成虫・新世代成虫 >						心折れ枝の多かった圃場では、果実への食入に注意する。
	せん孔細菌病（モモ）	やや多	< 感染拡大期 >						カメムシ類
樹	防 除 適 期		▲ シンクイムシ類（防除） ▲ ▲← カメムシ類（果樹園飛来時） →▲ ▲← モモ せん孔細菌病 →▲						夜間の気温や湿度が高いと突発的に飛来するため注意する。
									せん孔細菌病
									発病が確認された園では、本病に登録がある薬剤を選んで防除を行う。

注) ▲、▲←→▲：防除適期

調査データ

表1. 令和2年6月 BLASTAM によるいもち病発病条件

	河合	神岡	白川	栃尾 (上宝)	高山	六蔵 (荘川)	宮之前 (朝日)	萩原	宮地 (下呂)	金山
6/11	-	-	-	-	-	◎	◎	-	-	-
6/12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/13	●	-	-	●	-	-	-	-	-	-
6/14	-	-	-	-	-	◎	-	◎	◎	●
6/15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/19	△	●	△	△	◎	○	△	◎	●	◎
6/20	△	△	△	-	◎	-	○	-	-	●
6/21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/22	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/23	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/24	-	-	-	-	-	-	-	◎	-	-
6/25	-	-	?	-	-	-	-	-	-	-
6/26	●	●	●	△	●	△	△	●	●	●
6/27	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/28	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

凡例

△： 準好適条件（湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が20℃未満）

▲： 準好適条件（湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が25℃以上）

○： 準好適条件（湿潤時間は10時間以上であるが、湿潤時間中の平均気温が15～25℃の範囲外）

◎： 準好適条件（湿潤時間が湿潤時間中の平均気温ごとに必要な時間数より短い）

●： 好適条件（湿潤時間中の平均気温が15～25℃であり、湿潤時間が湿潤時間中の平均気温ごとに必要な時間満たし、当日を含めてその日以前5日間の日平均気温の平均値が20～25℃の範囲にある）

-： 好適条件、準好適条件は満たされなかった

?: 判定不能

※好適条件（●）が現れると感染し、潜伏期間（5～10日）を経て発病します。

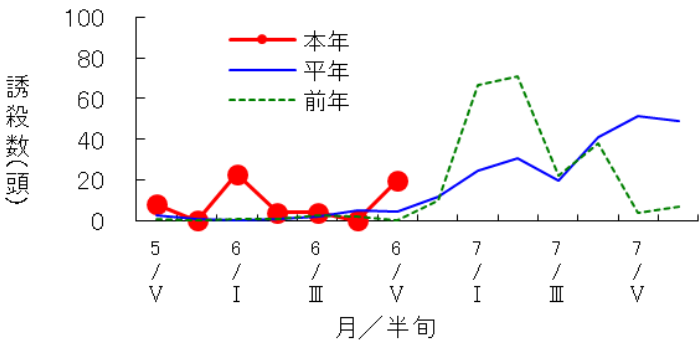


図3 予察灯によるチャバネアカカメシ誘殺数(高山市国府町)

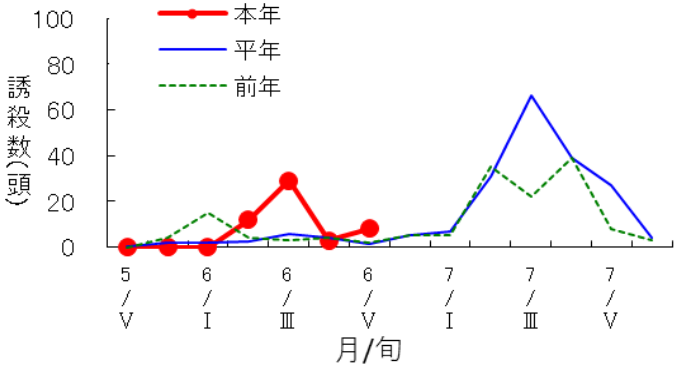


図1 予察灯によるアカスジカスミカメ誘殺数(高山市国府町)

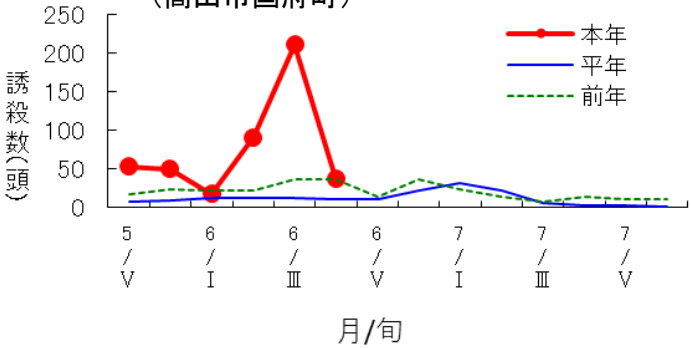


図2 誘引剤によるタネバエ誘殺数(高山市下林町)

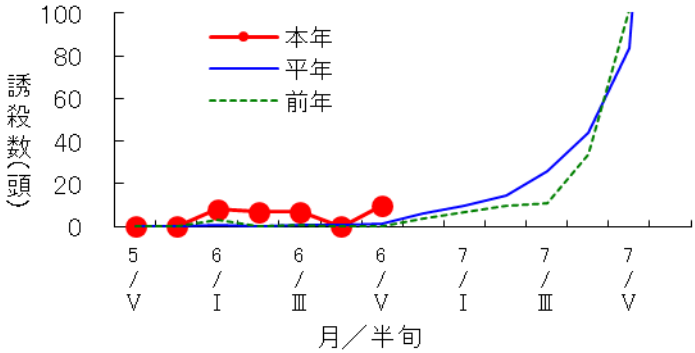


図4 予察灯によるクサギカメシ誘殺数(高山市国府町)

6～8月は「農薬危害防止期間」です。

農薬の適正な使用、保管管理に努め、農薬を散布する場合は、周辺に栽培されている作物のみでなく、住宅地等を含めて飛散がないよう、十分に配慮してください。

東海地方1か月予報(名古屋地方気象台 6月25日発表)

向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並、日照時間は平年並～少ないと予想されます。平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

岐阜県病害虫防除所では、この他に病害虫の詳細な調査データをホームページにて公開しています。

<http://www.pref.gifu.lg.jp/sangyo/nogyo/gifu-clean/24321/>

飛騨支所 〒506-8688 高山市上岡本町 7-468 TEL (0577) 33-1111(内線 245) FAX (0577) 34-2706